

「地域支援事業の推進」 に関する実施状況について

介護予防・日常生活支援総合事業

●一般介護予防事業

地域ぐるみで介護予防を進める、各町内会の公会堂等を単位とした「めざせ元気!!こけないからだ講座」を実施します。この講座は、筋力向上をきっかけに、元気な時から切れ目ない介護予防を継続できるとともに、高齢者が地域の気軽に集える場所で交流することにより、認知症・うつ・閉じこもり予防にも効果があります。

市では、講座活動を推進するために、体操に必要な重錘バンドや冊子・音楽CDを貸し出す等の物的支援と、介護予防インストラクターの派遣等人的支援を行っています。

講座の実施主体はあくまでも住民であります。地域の活動継続を見守り・支援するため、市や地域包括支援センターの職員が定期的に訪問して体力測定や介護予防・健康教育の講話等を実施したり、リーダー研修会の場で情報を発信したりしています。

めざせ元気!!こけないからだ講座	H30年度	R1年度	R2年度
実施箇所数	209箇所	216箇所	214箇所
参加者数(実人数)	3,874人	3,837人	3,633人
参加者数(延人数)	110,434人	104,278人	69,930人

【内容】めざせ元気!!こけないからだ体操

中級編・上級編の体操指導

骨粗鬆症予防、腰痛予防、認知症予防等についての健康教育

地域づくり支援 包括支援センター業務 介護保険制度 総合事業説明

など

ふらっとカフェ	H30年度	R1年度	R2年度
設置箇所数	18箇所	28箇所	27箇所

●介護予防・生活支援サービス事業

要介護者に対して、要介護状態となることを予防し、一人ひとりが活動的で生きがいのある生活を送ることができるように、生活上の多様な支援ニーズに答えるサービスの提供を目指しました。

ア 訪問型サービス

要支援者等に対し、掃除、洗濯等の日常生活上の支援を提供しています。

事業 (上段)事業所数 (下段)のべ利用人員	H30年度	R1年度	R2年度
介護予防訪問サービス (現行型訪問サービス)	26 箇所 2,416 人	25 箇所 2,260 人	23 箇所 2,107 人
生活支援サポーター訪問サービス (住民参加型訪問サービス)	8 箇所 382 人	8 箇所 345 人	8 箇所 293 人
専門職応援訪問サービス (短期集中型訪問サービス)	直営 4 人	直営 1 人	直営 6 人

イ 通所型サービス

要支援者等に対し、機能訓練や集いの場など日常生活上の支援を提供しています。社会福祉法人、NPO、民間事業者等による多様なサービスの創設を目指しています。

事業 (上段)事業所数 (下段)のべ利用人員	H30年度	R1年度	R2年度
介護予防通所サービス (現行型通所サービス)	39 箇所 4,211 人	38 箇所 1,476 人	40 箇所 874 人
ふれあい交流通所サービス (基準緩和型通所サービス)	5 箇所 270 人	9 箇所 419 人	11 箇所 372 人
元気いきいき通所サービス (短期集中型通所サービス)	4 箇所 47 人	10 箇所 511 人	10 箇所 621 人

認知症施策の推進

津山市の認知症施策では、認知症になっても本人の意思が尊重され、住み慣れた住まいや地域で心豊かに安心して生活が続けられる津山を目指し、市民へ認知症の正しい知識の普及、本人・家族等当事者を地域で支えていくための理解啓発、見守り体制の強化、認知症初期集中支援チームによる支援、相談窓口の周知、本人の社会参加、居場所の確保を進めました。

●認知症についての知識・理解の向上

認知症サポーター養成講座を開催し、年間1,000人以上の養成を維持できています。

認知症キャラバンメイトは、平成29年度時点で必要な養成人数を確保できており、平成30年度以降は新規養成を行っていません。認知症キャラバンメイトの状況に合わせて、講座の開催を検討しています。

市民への啓発では、9月21日の世界アルツハイマーデーに伴う9月1日から30日の認知症月間中に、街頭でのチラシ配布、市役所・支所・図書館等でのパネル展示や、オレンジ色の物を身につけて街中を歩き、啓発を行うオレンジウォーク等の啓発事業を、認知症地域支援推進員を中心に、地域の事業所と協力して展開しています。認知症フォーラムと題して講座も開催しています。認知症フォーラムでは認知症の当事者の方を講師として招くなど、当事者を理解し寄り添える支援者を醸成しています。

また、令和元年度より、地域の飲食店等の協力のもと、認知症の方がスタッフとして働き、市民への認知症の理解啓発と本人の社会参加を進める、「注文をまちがえるかもしれないレストラン」を認知症地域支援推進員を中心に企画・開催しています。

事業		H30年度	R1年度	R2年度
認知症サポーター養成講座	実施回数	47回	48回	26回
	受講人数 (年度別養成数)	1,167人	1,328人	613人
認知症キャラバンメイト養成講座	実施回数	0回	0回	0回
	受講人数 (年度別養成数)	0人	0人	0人
世界アルツハイマーデー 認知症フォーラム	実施回数	1回	1回	1回
	参加人数	340人	450人	80人

●認知症の相談・支援体制の整備

認知症初期集中支援チームにより、認知症またはその疑いのある方や家族に介入し、訪問による状況の確認や、相談支援を行い、必要に合わせて医療、介護へのつなぎを行っています。津山市では、サポート医1名、保健・福祉専門職3名のチームで活動しており、毎月1回チーム員会議を開催し、支援の方向や経過の確認を行っています。

事業	H30年度	R1年度	R2年度
認知症初期集中支援チーム 新規支援ケース数	29人	23人	26人

相談については、津山市地域包括支援センターに相談窓口を開設し、認知症相談日を設け、随時の相談に合わせて相談のしやすい環境を整備しています。また令和元年度より若年性認知症相談日を新たに設け、若年性認知症に関する相談に対応しています。

また、認知症ケアパスの作成を平成29年度に行い、市民、関係機関への配布し、認知症についての正しい知識、利用できるサービスや支援の情報を周知しました。令和元年度に内容の更新を行い、配布を継続しています。

●見守りシステムの構築

日頃から住民と接する機会が多い地域の企業や事業者と「津山市見守り協定(つやま見守ろうねット)」を結び、業務の中で地域の高齢者等を見守り、異常の早期発見につなげていきます。令和元年度には協定事業者の連絡会を開催し、見守り体制の情報を共有し、ネットワークの強化を図りました。

事業	H30年度	R1年度	R2年度
つやま見守ろうねット 協定事業者数	53事業所	59事業所	67事業所

認知症等で道に迷う恐れのある高齢者の方を事前に登録し、捜索が必要となった場合は協力者に行方不明者の情報をメールで配信を行い、見守りの目を増やすことで早期発見につなげる「認知症高齢者等SOSメール事業」を実施しています。事前登録者、協力者共に増加しています。

実際に行方不明になられ、メールの配信を行った事例が2件発生しており、内1件はメールを見た協力者が本人を発見し保護に至っています。

事業		H30年度	R1年度	R2年度
認知症高齢者等 SOSメール事業	事前登録者数	12人	23人	32人
	協力者数	3,014人	4,028人	4,886人

認知症等により道に迷っている高齢者を発見した時の声かけや対応を体験する「認知症あったか声かけ模擬訓練」を開催し、認知症に関する正しい理解の啓発、地域ぐるみの対応力向上を図っています。

事業	H30年度	R1年度	R2年度
認知症あったか声かけ模擬訓練 開催回数	4回	2回	0回

●認知症の人やその家族への支援

認知症の人やその家族、地区住民、医療・福祉の専門職が幅広く参加し、認知症の理解を深め合い、交流のできる場として「認知症カフェ」の活動を支援し、居場所の確保を進めています。令和元年度時点で6箇所のカフェが活動しており、今後も地域のニーズを確認しながら新規立ち上げや、活動の支援を行っていきます。

新規立ち上げに向け、既存の高齢者サロン等に働きかけを行ってきましたが、運営に係る人材と場所、資金に課題があり、新規立ち上げには繋がっていません。6箇所の認知症カフェでは参加者の人数にばらつきはあるものの、継続的に通っている利用者がいます。

しかし、利用したくても移動手段が無く、繋がっていない認知症の方もおられ、新規に立ち上げが必要な地域や、ニーズのある認知症の状況把握も今後の課題となっています。

支援を拡大していくため、おかやま認知症コールセンターの設置や、当事者のピアサポートを行っている「認知症の人と家族の会」について、活動の周知等協力を行っています。

包括的支援事業

※地域包括支援センターより報告

任意事業

高齢者の地域における自立した日常生活を支援するため、津山市の特性に応じた任意事業として次の事業を推進します。

事業		H30年度	R1年度	R2年度
食の自立支援事業 (配食サービス)	利用者数	21人	12人	12人
	配食数	1,561食	1,545食	1,956食
家族介護教室	開催回数	8回	4回	2回
	受講人数	148人	117人	48人
家族介護慰労金支給事業	支給件数	4件	3件	1件
成年後見制度利用支援事業	対象者数	19人	28人	27人
	金額	3,954千円	5,845千円	5,619千円